

旧街道を歩く 〜野辺の石仏を訪ねて〜

タウンウォッチャー 三本晴伸(穴虫)



◆タウンウォッチャー発信

古い地図(明治四一年)を基に、香芝市を西から東に横断してみました。旧街道といつても本誌第三号で紹介された街道ではなく、現在の国道一六五号線の前身で、九〇年前の雰囲気を感じたくて歩いてみました。

出発は、近鉄大阪線田尻踏切。もちろん

地図には近鉄線は記されていません。すぐ国道の信号を左に曲がり峠を目指します。かつてはかなり曲がりくねっていたと思われ、今もその名残を感じさせてくれます。左手に「コンジ」が見え、その少し手前右側にバナナそっくりの芭蕉の木があります。香芝西中学校の進入路を過ぎると峠の頂で、下りきると太子町方面への交差点に出ます。最近山麓線が開通し大きく変わりました。その右手の広くなった歩道に、像高三〇cmあまりの地藏石仏が東向きに立っています。右大坂道、左さかい道の銘文があります。東に向かうと北東の方向に高山台の開発が見え、その先に青垣の山々が遠望できます。国道と近鉄線が接する辺り北側に西穴虫の墓地に阿弥陀石仏があると聞いて立ち寄りました。像高一〇五cm(天文一七(一五四八)年造立、お顔の表情はおだやかで、もとは線路南側の新地の傍らにあったそうです。

よく手入れされた花壇があるところで国道と別れ、地図で見える穴虫西垣内と記されたところに入っていきます。この辺りは、大きな旧家が道の両側に立ち並んで旧街道の雰囲気が残っています。少し歩くと三差路があり、右手電柱の横に、正面には二上村道路元標と彫られ、裏面には奈良県と彫られている石柱(高一二〇cm、辺二〇cm)がありました。これを基準に道路

が造られたのでしょうか。旧街道の雰囲気を楽しみながらも少し歩くと、安川龜太郎翁顕彰の碑と記された大きな石板の記念碑がありました。これには、金剛砂を地場産業に育てた人らしくその業績が、生い立ちとともに詳しく記されています。また、建立が昭和乙丑年三月吉日と干支によって記されているのがおもしろい。(乙丑きのこのうし 昭和六〇年 一九八五年)

道は再び国道と合流し、近鉄南大阪線二上山駅への信号機を過ぎると北側に二上小学校があります。その運動場の端あたりから右に折れると、二上神社口方面へ行く道で、こちらが旧街道「さかい道」となります。市役所方面へ行く現在の国道は小さく地図に記されています。少し歩くと右



花崗岩製のお地藏さん(撮影:筆者)

側に道標があり、右大坂の文字が浮かびます。現状は地上二〇cmの所で折れて道端に横たわっていました。文化財は大切にしたいものです。ここからすぐ左に、大きな銀杏の木があり、左手東方に市役所庁舎が見えてきました。

香芝中学校へ行く別れ道を通ぎると道は東向きになり、前方に竹藪が見えてきました。その中にも像高五八cm、安山岩製、天文一〇(一五四一)年造立の地藏石仏があります。別名歯痛地藏といわれ歯痛を治してくれたそうです。磯壁の住宅に入ると、まもなく立派なお堂が見えてきました。その中に花崗岩製のお地藏さんが祭られています。像高五七cmの立派なお姿で、北野の商い地藏として、現在も商売をされている方々のお参りが絶えないそうです。

やがて道は東へゆるやかな下りになり、この辺りはかつてはのどかな田園風景が広がっていたことを感じさせてくれます。国道一六八号線の信号を横断し東へ、狐井城山古墳の森を見ながら近鉄五位堂駅へ向かいました。このあたりは地図では一面の水田地帯になっています。

今回はここまでで、所要時間は約三時間かかり、自動車を通ると感じることできない新たな発見がありました。次回また別の道歩いてみたいと思います。



正面二上村道路元標と彫られ裏面には奈良県と彫られている石柱(撮影:筆者)